教育実践学研究第７号　２００３．３

〈論　文〉

# 児童の心理的防衛の減少を援助する共感的理解の在り方
## ―粗野な言動をとるＡ男（小５）との面接過程の検討を通して―

跡見学園女子大学
山口豊一*

研究の概要
ロージァズの来談者中心療法の理論と方法の中でも，特に共感的理解についての理論的理解を深めながら，粗野な言動をとるＡ男との面接を行った。
そして，その逐語記録をトラックスの「正確な共感を評定するためのひとつのスケール」の視点から検討し，面接者**とＡ男の変容過程の分析を通して***，心理的防衛の減少を援助する共感的理解の在り方を実践的に究明した。

キーワード：来談者中心療法，共感的理解，心理的防衛，スケール，変容過程

A study on emphathic understnding to help reduce pupils' defense mechanism : Through the examination of interviews with a pupil A, who speaks and behaves roughly

Toyokazu Yamaguchi (Atomi University Niizasi, Saitama 309-1722)

Outline of this study
We studied empathic understanding to help reduce pupils' defense mechanism. We ihterviewed a boy A, who spoke and behaved roughly, deepening our theoritical understanding particuraly of empathic understanding among the theories and methods of client-centerd therapy advocated by Rogers. Then We examined the interview records from the view point of "a scale to evaluate exact emphacy" by Tracks and analized a boy A's changing process.

Key words : client-centered therapy, emphathic understanding, defense mechanism, scale, changing process.

### 問題と目的

Ａ男は，明るく活動的で，休み時間にはよく外へ出て遊んでいる。男の子たちを引っ張っていく中心的存在でもあった。反面，周りの児童が気にしていることを言ったり，ちょっとした言動の揚げ足を取ったりして，友達との人間関係を悪くしている様子が見られた。面接者はＡ男に対し，注意を繰り返すことで自分の言動が友達にどのような影響を与えているのかを考えさせようとしたが，Ａ男は友達と同じことをしているだけだということを主張し，その後も粗野な言動を止めなかった。

面接者は，Ａ男に早く落ち着いた生活をさせたいと願い，指導や助言をすることが多くなり，

---

※前茨城県教育研修センター指導主事　※※面接者（Ａ男の担任，実践協力者，公立小学校教諭　仁平伸一）
※※※事例については、プライバシー保護のため変えてあります。

A男の気持ちを理解しようとする態度がとれなかったことを反省した。そのためにA男は，友達との人間関係を悪くしていることに気付かなかったり，あるいはそのことと向き合い，真剣に考えようとしなかったりしたのではないかと考えた。そこで面接者は，A男の気持ちを共感的に理解したいと考え，面接を行っていくことにした。しかし，A男は面接の中で，自分の気持ちや考えを話そうとはしなかった。それは，A男が担任である面接者に話すことで，注意や指導を受けるのではないかと身構えてしまったり，面接者自身の枠組みで評価や診断をする応答が多くなったりしたために，A男の心理的防衛が働いたことが原因ではないかと考えられる。

そこで面接者は，A男がどのように感じ，どのように考えているのかをA男の立場に立って共感的に理解し，A男の心理的防衛の減少を援助することが必要であると考えた。そのために面接者は，共感的理解についての理論的理解を深めながら，A男との面接を実施していきたいと考えた。そして，A男との面接とその逐語記録，学校でのA男の観察記録の検討を通して，面接者自身の共感的理解の深まりとA男の変容過程についての分析と考察を進めていきたいと考えた。

本研究では，粗野な言動をとるA男（小5）との面接を通して，児童の心理的防衛の減少を援助する共感的理解の在り方を究明する，ことをねらいとする。

## 研究Ⅰ

### 1　目的と方法

先行研究の検討・分析等を通して、心理的防衛の減少を援助する共感的理解の在り方を理論的に明らかにする。

### 2　心理的防衛の減少を援助する共感的理解

#### (1)　共感的理解について

①　来談者中心療法の基本的な考え方

ロージァズは『人間論』の中で「人間は，自己を成長させ自己実現へと向かう力を内在している存在である。」と述べている[注1]。つまり，人間は誰でも成長の可能性をもっているということであり，ロージァズの人間観は，人間の成長への可能性を信頼することである。彼は，この人間観を基盤として，カウンセラーが今ここでのクライエントとのかかわりを大切にするという新しいアプローチを試みた。そして，これを支える見解として，著書『カウンセリング』の中で，次のような四つの基本的仮説を示している[注2]。

ア　クライエント自身の成長，健全さ，及び適応へと向かう個人の衝動を信頼する。

イ　クライエントの知的な面よりも情緒的な面を重視する。

ウ　クライエントの過去よりも今ここでの状況を重視する。

エ　カウンセラーとクライエントのカウンセリングそのものが成長の経験である。

これらのことから，来談者中心療法においては，今ここでのクライエントの感情を重視するカウンセラーの態度が大切であり，知的側面より情緒的側面へのかかわりを強調しているとと

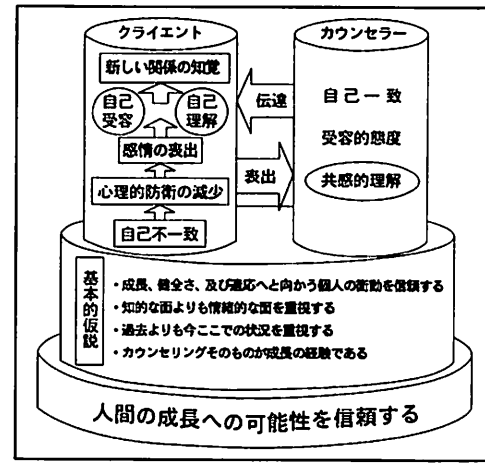


図1　来談者中心療法の基本的な考え方

らえられる。そして，彼は，この四つの基本的仮説を基に，建設的なパーソナリティ変化が起こるための必要にして十分な条件として『サイコセラピィの過程』の中で，六つの条件を挙げている(注3)。そして，この六つの条件が存在し，ある一定期間継続するならば，クライエントはカウンセラーとの関係の中で変容していくとしている。さらに，カウンセラーに求められる基本的態度として，自己一致，受容的態度，共感的理解の重要性を述べているのである。

クライエントはカウンセラーのかかわりによって図１のような変容過程をたどり，心理的防衛が減少することによって，クライエントの感情の表出がより促進されるととらえられる。

② 共感的理解

ロージァズは共感的理解について，『サイコセラピィの過程』の中で「カウンセラーは，クライエントの私的な世界を，あたかも自分自身のものであるかのように感じとり，しかもこの“あたかも・・・のように”という性質を失わない－これが感情移入なのであり，セラピィにとって肝要なものであると思われる。クライエントの怒りや恐怖や混乱を，あたかも自分自身のものであるかのように感じとり，しかも自分の怒りや恐怖や混乱がその中に巻き込まれないようにすること，これが，われわれがここで説明しようとしている条件なのである。」(注4)と述べている。また，同書では共感のもつ要件として次の４点を示している(注5)。

ア　カウンセラーは，クライエントの感情をよく理解することができる。

イ　カウンセラーは，クライエントの述べている意味を決して疑わない。

ウ　カウンセラーの発言は，クライエントの気分や述べた内容にぴったりと適合している。

エ　カウンセラーの声の調子は，彼がクライエントの感情を完全に共有することができていることを伝える。

これらのことから，共感的理解ということをカウンセラーの主体性を失うことなく，相手の人の感じ方や考え方（内部的照合枠）でその人の身になってできるだけ正確に理解し，理解したことを正確に伝えることであるととらえられる。つまり，クライエントの喜びや悲しみをクライエントが感じるように感じ，クライエントの怒りや恐怖や混乱を，あたかも自分の感情であるかのように感じ取ることである。大切なことは，言葉や話の内容ではなく，その底を流れるクライエントの感情であると考えられる。

③ 共感的理解の深まり

ロージァズは『サイコセラピィの研究』の中で「正確な共感は，現在の諸感情への敏感さと，この理解を，そのクライエントの現在の諸感情に調和した言葉で伝える言語的な熟練，との両方を含むのである。」と述べている(注6)。また，飯塚銀次は『カウンセリング』の中で「共感的理解が正確であるためには敏感であることが要件である。この点から，理解にはカウンセラーの感受性のレベルが要求される。」と述べている(注7)。つまり，正確な共感のためには，カウンセラーがどれだけ敏感にクライエントにかかわるかが重要であり，さらに，理解したことを伝えるために，カウンセラーは言語的な熟練が要求されるととらられる。本研究では，共感的理解の深まりを評定するために，トラックスの「正確な共感を評定するためのひとつの

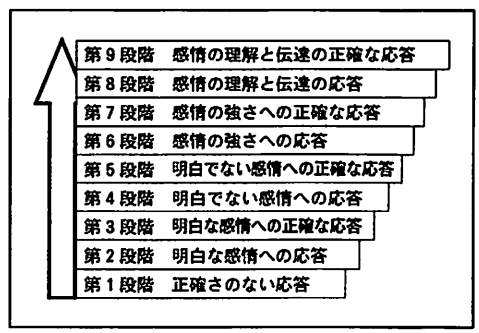


**図２　正確な共感を評定するスケール**
（トラックス「正確な共感を評定するためのひとつのスケール」を参照）

スケール」を手掛かりに，逐語記録の応答を分析し，その評定の平均値を求めて，実践的な考察を加えることにした。トラックスは「このスケールは，あるひとつのほとんど完全な共感の欠如から始まって，そのセラピストが，クライエントの感情の十分な範囲に的確に応答し，それぞれの情動的なニュアンスと深く隠された感情とを認知するような，あるひとつのレベルまで続いてゆく。」と述べ，共感的理解のレベルを九つの段階に分けて定義している(注8)。この定義を基に正確な共感を評定するスケールを図2のようにとらえた。

(2) 心理的防衛の減少について

① 心理的防衛の減少

小林利宣は『教育相談の心理学』の中で「日常の世界において，個人の内的欲求がそのまま実現されることはむしろ少なく，環境からの抑圧や刺激によって欲求が阻止され欲求不満に陥ったり，欲求間で葛藤が生じて，精神的に不均衡状態になることがしばしばある。これにともなって不快な感情（不安，不満，悩み，怒りなど）による緊張が生じる。人の心の場合，精神的不均衡から均衡を取り戻し，不快な緊張を解消して，適当な緊張と快の感情（安心，満足，喜びなど）を得る方向に精神的な力が作用する。」と述べ，これを適応の過程であると指摘している。そして「この適応の過程で，欲求を無意識の世界に抑え込んだり，別の欲求満足を選んだりして，精神的均衡を回復する働きを防衛機制という。」と述べている(注9)。

私たちが，普段の生活の中で，欲求不満になったり，精神的な不均衡を起こしたりする時，精神的均衡を取り戻す過程が適応の過程である。この適応の過程で，無意識のうちに欲求を抑え込んだり，別の欲求を選んだりして精神的均衡を回復する働きが防衛機制（心理的防衛）であるととらえられる。私たちは，学校や家庭，職場などの生活の多くの場面で，欲求不満になったり，精神的不均衡状態になったりして，そのたびに心理的な安定を維持するために心理的防衛を働かせていると考えられる。

しかし，面接の中で，A男に心理的防衛が働いていることを面接者が認識することは困難である。そこで，本研究では，面接場面のA男の言語表現や行動，身体反応の変化から，A男の心理的防衛をとらえることにした。國分康孝の著書『カウンセリングの技法』を参考にし，具体的には下記のことなどを中心に分析する(注10)。

ア　小声になる（言語）
イ　同じ話を繰り返す（言語）
ウ　カウンセラーの言いそうなことを先取りし，物わかりの良さそうなことを言う（言語）
エ　沈黙がちになったり，長い沈黙になったりする（行動）
オ　室外のことを気にする（行動）
カ　あくびが出る（身体反応）
キ　ため息が出る（身体反応）

② 心理的防衛の減少と共感的理解の関連

ロージァズは『人間関係論』の中で「私たちは，他の人の世界を分析し，評価するが，それを理解しないのである。しかし，誰かが私を分析しよう，判定しようと意図をもたずに，私がどのように感じ，どのように見ているかを理解するならば，私はそういう雰囲気の中で開花し，成長することができるであろう。」と述べている(注11)。

つまり，カウンセラーの診断や評価はクライエントを理解したことにはならない。カウンセラーが共感的に理解しようと努力し続けていくと，クライエントは「分かってもらえそうだ」から「分かってもらえた」「信頼できる」という実感をもち，クライエントとの間に人

間の成長を促進するような関係がつくられていき，心理的防衛が減少するととらえた。そのような関係の中で，クライエントは安心感を感得し，感情の表出を始めると考える。そして，クライエントは今まで気付かなかった感情が明らかになり，自己理解や自己受容をし，新たな視点で物事を見ることができるようになると考えた。

カウンセラーがクライエントの情緒的側面に寄り添い，内部的照合枠で理解し，診断的・評価的でない応答を心掛けることで，クライエントの成長を促進することにつながると考える。本研究における面接では，面接者がＡ男に対して，共感的理解に基づいた応答を心掛けていけば，Ａ男の心理的防衛は減少し，今まで表出できなかった感情を表出したり，気付かなかった感情や考え方に気付き始めたりするようになると考えた。

## 研究２

### １　目的と方法

面接者のＡ男との８回の面接過程の検討を通して，心理的防衛の減少を援助する共感的理解の在り方を実践的に明らかにする。

### ２　実践を通しての考察

#### (1)　Ａ男との面接過程

Ａ男との面接とその逐語記録の検討を通して，Ａ男の変容過程と面接者の共感的理解の深まりについて考察を行った。Ａ男と実施した８回の面接について，Ａ男の変容過程とＡ男の様子との関連及び面接者の共感的理解の深まりをまとめたものが表１である。

Ａ男の変容過程については，心理的防衛が働いたために現れたと考えられる言語表現や行動，身体反応とそれらの変化の主なものを記載した。Ａ男の様子については，学校生活について学級担任，委員会顧問，フロアー担当による観察，Ａ男自身に対する「学校生活に関する意識調査」，及びＡ男との面接中に把握できた内容を基にまとめた。

面接者が，Ａ男の行動や言葉に表現された表面的なことを，面接者の考え方でとらえ，Ａ男とかかわっていては，それはＡ男のことを本当に理解したことにはならない。面接者は，Ａ男が毎日の生活の中で，どのように感じ，どのように考えるのか，その感情に寄り添い，共感的に理解していくことが大切である。そこことを十分踏まえながら，本実践を進めた。面接者の共感的理解の深まりについては，前述の「正確な共感を評定するスケール」（図２）を用いて検討し，各面接ごとにその代表的なものを記載した。応答の評定値は，面接者の全応答について９段階で評定し，面接者の応答の後の括弧内に数字で示した。スケール評定平均値は，面接者の応答の評定値の和を全応答数で割って求めた。

**表１　Ａ男との面接過程**

（以下，ＣはＡ男，Ｔは仁平）

| 回 | 心理的防衛の出現率（%） | Ａ男の変容過程 | Ａ男の様子 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 面接中 | 学校生活 |
| 1 | 56 | 【不安に思っていることを語るＡ男】<br>C16　苦手ってゆうよりも，何て言ったらいいんだろうな。苦手ってゆうよりも（ん，苦手ってゆうよりも）難しい。<br>C21　あと，登校班で（うん）１年生のことなんですけど，（うん）なんか１年生が（うん）ふざけて（うん）登校してくる。<br>C22　注意して（うん）何とか（うん）大丈夫なんですけど（うん）今度ぼくたち班長だから（うん）ゆうこと聞いてくれるか，班長になって。 | 最初の面接ということもあり，どんなことを話せばいいのか話題を見つけようと，面接の途中で考える様子が見られた。 | ４月に行った「学校生活に関する意識調査」では，ちょっとしたことでイライラすることがあると答えている。友達に，自分の意見を強く言う様子が見られた。 |

| 回 | 心理的防衛の出現率（%） | A男の変容過程 | A男の様子 | |
|---|---|---|---|---|
| | | | 面接中 | 学校生活 |
| 2 | 42 | 【B男の不満を語るA男】<br>C32 うんとなんか男の子たちが（うん）むかつく～って（うん）Cのことゆ～ってる。（う～ん）ゆってるCのこと。むかつくって。<br>C35 だけど，う～ん，B男君がね，話しかけてくるからね〈自分で鼻をつまんで，声を変えて言った〉（聞こえない）B男君が話しかけてくるから（うん）うんとちゃんと聞けない。隣にいるB男君が。 | 何を話そうか，一生懸命話題を探そうとしていた。鼻をつまんで声を変えたり，声の調子を変えたりするなどの様子が見られた。 | 特定の女子児童に対して，乱暴な言葉遣いをする様子が見られた。睨んだり，大きな声で相手を威圧したりする様子が見られた。 |
| 3 | 36 | 【家族の話題を語るA男】<br>C43 ううん，違う違う。思ってないけど，（うん）う～んと見てんのがほとんどお姉ちゃんだから，（うん）僕も一緒に見てる。<br>C50 て，お母さんとかが言ってる。<br>C53 でも睡眠はちゃんととらなくちゃだめだから。<br>C56 う～んなんか，Tだな，この音。 | 廊下や階段での友達の話し声や口笛に，気を取られる様子が見られた。身体や手を動かして，落ち着きのない様子が見られた。 | 仲の良い友達のB男が転校してしまうことで，休み時間にはB男と遊ぶことが多かった。放課後も一緒に帰ったり，遊んだりした。 |
| 4 | 31 | 【好きなゲームのことを語るA男】<br>C33 心配〈小声で〉。<br>C46 何かみんな，気持ち悪いって言ってる。<br>C50 やだ，う～ん，やだ，う～ん，やだは～，うん同じか。（うん）うん，う～ん。う～ん，何てゆうんだろう。（沈黙28秒）やだは～，見てこないで欲しい。変なふうに。 | 自分の気持ちを考えて話す様子が見られた。身体を揺すったり，外のことに気を取られたりする様子はほとんど見られなかった。 | B男は転校してしまったが，A男の学校生活には大きな変化は見られなかった。委員会の仕事も，友達と協力して活動していた。 |
| 5 | 30 | 【自分の気持ちと向き合うA男】<br>C 9 それは班で，んと～T君とK君で，（うん）決めて，それで今度から（うん）つっかかったり，失敗と～，つっかかったり，（うん）間違わないようにしようって，（うん）決めた。（う～ん）<br>C28 う～ん。（う～ん）〈A男が咳をする〉<br>C29 と，思ってる。（う～ん）思ってる。〈小声で〉〈A男が大きなため息をつく〉 | 面接の途中で，咳をしていたことが気になった。あくびをしたり，目がうつろになったり，どことなく集中できていない様子だった。 | 遊びの中心的存在になっており，周りの友達に，自分の意見を強要する様子が見られた。自分の思うようにいかない時は，大きな声を出すこともあった。 |
| 6 | 44 | 【自分のこととして語らないA男】<br>C16 それで，何であんなに（うん）と前やって怒られたのにまた，（うん）同じことをするのかなって思った。みんなそう思った。<br>C19 O先生が，（うん）月曜日（うん）その人たちで（うん）ちょっと話そうねって言って，（うん）Cはと～，そうゆう時に，Cんちのお母さん来て，（中略）Cのお母さんと一緒に帰って，（うん）先生が何か（うん）どっちが悪いのかなあって考えてた。どっちが悪いのかなあ～って考えてた。 | 5時間目に水泳学習があったためか，表情に疲れた様子が見られた。後半になると，あくびをすることがあったが，落ち着いて話をし，自分に言い聞かせるように考える様子が見られた。 | 1週間ほど体調を崩していた。しかし，学校は欠席せずに登校していた。4・5・6年合同の読み聞かせの時間には，落ち着いて話を聞いていた。 |
| 7 | 27 | 【父親についての思いを語るA男】<br>C20 変わっちゃうかもしれない。（中略）決めた方がいいかもしれない。<br>C35 ああ，そうだ。映画（うん）映画行くってまだ，（うん）お母さんには言ったんだけど，お父さんには言ってないから，（うん）お母さんはいいって言っても，お父さんがだめって言ったら行けないから。<br>C39 だから，あ～だめか，だめだ～。 | 面接者の存在を忘れて，独り言を言うように，うつむき加減で話をする様子が見られた。面接者の質問に，一生懸命考えて答えようとしていた。同じ言葉を何度も繰り返すことがあった。 | 総合学習の中間発表会に向けて，発表資料や原稿を休み時間に友達と調べたり，まとめたりする様子がよく見られた。発表会では，大きな声で堂々と発表をした。 |
| 8 | 30 | 【面接者の応答に修正を繰り返すA男】<br>C16 そんなに強くじゃないんだけど，（うん，うん）こうやって，こうやって。（う～ん）<br>C28 なん，今年も，（うん）20回は（うん）行きたいなと思ってる。<br>C40 そう，ん，違うよ。んと，旅行で，（うん）食べるけど（うん）あれやるの何だっけ，あれ，なんて言ったらいいのかなあ，バーベキュー（うんうんうん）土手でやるから。 | 時々，あくびをした。姿勢や態度は，面接中，ずっと落ち着いていた。ベイブレイドやじゃんけんを説明する時には，ジェスチャーを交えて身体を動かしながら説明した。 | 夏休み前から，理科の自由研究をする計画を立てていた。1学期の最後に行った「学校生活に関する意識調査」では，イライラすることがほとんどなくなったと答えている。 |

※心理的防衛の出現率＝（A男の心理的防衛の回数和）÷（A男の発言数＋沈黙数）

| 回 | スケール評定平均値 | 面接者の共感的理解の深まり |
|---|---|---|
| 1 | 1.97 | 【言葉に表れた表面的な内容に反応して応答をしている面接者】<br>C15：作文とかは大丈夫なんだけど（うん）テストが一番苦手。（小声で）<br>T16：作文とかは大丈夫なんだけど，テストが一番苦手なんだ。ん～ん。そうか苦手なのか。(1.5)<br>C16：苦手ってゆうよりも，なんて言ったらいいんだろうなあ。苦手ってゆうよりも，難しい。<br>T17：苦手ってゆうよりも難しい。ん。（２） |
| 2 | 1.98 | 【内容の理解に終始して，機械的な応答をしている面接者】<br>C21：学級会で。最初は，何のことだったんだっけ。最初は，（沈黙10秒）ん，最初は何だっけ。最初はね，（うん）なんだか始まったんだ。<br>T22：学級会の議題。（１）<br>C22：う～ん，学級会の議会，あれ議題。<br>T23：別の議題で始まったのかな。別の議題で始まったんだけど，Ｃちゃんの，その話になったのかな。学級会で。（１） |
| 3 | 2.00 | 【表明された感情に寄り添えない面接者】<br>C46：10時くらいまで，だったら，ね。<br>T47：10時くらいまでだったら，起きていたい。（４）<br>C47：起きていい，起きてていいって，（うん）とゆわれた。親に。<br>T48：10時くらいまでだったら起きてもいいってゆうふうに，家の人に言われたんだ。（沈黙13秒）う～ん，だから起きてていたい。(1.5) |
| 4 | 2.06 | 【自分の内部的照合枠で理解し，応答している面接者】<br>C61：トイ，誕生日はトイザラスで買うから，そのついでにベイブレイドを買ったら，（うん）買う。買いたい。（買いたい）なかったらしょうがないけど，（うん）もしあったら，（うん）買いたい。（買いたい）買いたい。<br>T62：それだけ欲しいってゆうこと。（２）<br>C62：欲しい。<br>T63：そんなに，おもしろいんだ。うん，何かこう，（４） |
| 5 | 2.22 | 【Ａ男の感情を正確に理解しようとしている面接者】<br>C44：ある。開けたいけど（うん）んと満杯になるまで（うん）辛抱しよう，（うん）でも開けたいなあ。（ううん）<br>T44：開けたいけど，最後まで満杯になるまで辛抱しようってゆう気持ちもあるし，それから開けたい，開けたいなあってゆう気持ちもあるし，両方の気持ちがあるんだ。（３）<br>C45：両方の気持ちがある。<br>T45：う～ん。そうかあ。どっちのほうが強いのかな。（３） |
| 6 | 2.18 | 【Ａ男の考えを深めるような応答ができない面接者】<br>C１：今，特打やって，（うん）初めてやって（うん）キーボード練習とかにも（うん）同じようなのがあるけど，（うん）キーボード練習より（うん）特打の方が，早く（うん）キーボードってゆうか，ローマ字なんか覚えそう。（あ～あ）だなあと。<br>T２：特打の方がキーボードよりも，早くローマ字を覚えそう。（Ａ男がうなずく）ローマ字早く覚えたいってゆうふうに思ってる。（Ａ男がうなずく）うん。（４）<br>C２：それで，初めて，（うん）特打できて，（うん）嬉しいなあと思った。<br>T３：そう，初めて特打ができて嬉しいなってゆうふうに思った。（Ａ男がうなずく）うん。やってみたいと思ってたんだよね。（Ａ男がうなずく）うん。どうだろう，またやってみたいってゆうふうに思ってる。（Ａ男がうなずく）う～ん。（３） |
| 7 | 2.27 | 【非言語的な表現から感情を感じつつある面接者】<br>C38：そうだったかな～。（う～ん）（沈黙72秒）本当にあ～ってゆう顔だったかな。（小声で）（沈黙51秒）う～ん，その時は，（うん）と～父さんが遊びに行く時とかに，（うん）行っちゃだめだってゆったことないの忘れてて，（うん）それで，<br>T39：あ～，今まで行っちゃだめだってゆうふうにゆったことはないのを忘れてたんだ。う～ん。（２）<br>C39：だから，あ～だめか，だめだ～。（うん）<br>T40：あ～だめか，だめだ～ってゆうふうに思ったんだ。う～ん。（３） |
| 8 | 2.13 | 【Ａ男の心理的防衛的にとまどいながら応答している面接者】<br>C16：そんなに強くじゃないんだけど，（うん，うん）こうやって，こうやって。（う～ん）<br>T17：そん時どんな気持ちだった。（４）<br>C17：ん～，どんな気持ちだったろう。う～ん。（沈黙15秒）う～ん，どんな気持ちだったろう。（沈黙21秒）うろちょろしなければよかった。<br>T18：うろちょろしなければよかった。う～ん。（３） |

※スケール評定平均値＝（面接者の応答ごとの評定の和）÷（面接者の全応答数）

(2) A男との面接の具体的場面とその考察

ア 言語に現れた表面的な内容に反応して応答をしている面接者

（以下，CはA男，Tは仁平　場所：コンピュータ室，下線部は，私の応答のポイント）

| 第1回面接【不安に思っていることを語るA男】 | 平成13年5月25日（金） |
|---|---|
| C14 | なんか（うん）今度は（うん）算数は得意になってんだけど（うん）反対に（うん）国語が（うん）なんか（なんか）苦手になってきた。 |
| T15 | 国語が苦手になってきちゃったんだ。う～ん。 |
| C15 | 作文とかは大丈夫なんだけど（うん）テストが一番苦手（小声で）。 |
| T16 | 作文とかは大丈夫なんだけど，テストが苦手なんだ。ん～ん。そうか，苦手なのか。 |
| C16 | 苦手ってゆうよりも，なんて言ったらいいんだろうな。苦手ってゆうよりも（ん，苦手ってゆうよりも）難しい。 |
| T17 | 苦手ってゆうよりも難しい。ん。 |
| C17 | 漢字も難しいのがいっぱい出てくるし，出てくるし。 |
| T18 | ああそうか，漢字も難しいのがいっぱい出てくるんだ。国語のテストは，難しい漢字いっぱい出てて難しい，ってゆうふうに思ってるんだね。 |

〈考　察〉

第1回目の面接ということで，面接者は，A男が安心して話せるような関係づくりを心掛けて面接に臨んだ。また，質問をすることによってA男が脅威を感じる場合があるということを念頭におき面接を進めた。感情に焦点を当てて応答していくことも心掛けた。

A男はC14で，テストが苦手になってきていることを話した。それに対して，面接者はT15で「なってきちゃったんだ。」と言語に現れた表面的な内容に応答をしている。A男の感情にふさわしくない応答だと反省した。C15でA男は「テストが一番苦手」と小声で話しているのに，面接者はT16で「そうか，苦手なのか。」のように，内容だけの理解を示すような応答をしてしまった。そのためにA男は，自分の恥ずかしいところを面接者に見せたくないという心理的防衛が働き，C16で「苦手ってゆうよりも難しい。」と表現を変えて言ったのではないかと考えられる。

イ 内容の理解に終始して，機械的な応答をしている面接者

| 第2回面接【B男の不満を語るA男】 | 平成13年6月15日（金） |
|---|---|
| C35 | だけど，う～ん，B男君がね，話しかけてくるからね（自分で鼻をつまんで，声を変えて言った）（聞こえない）B男君が話しかけてくるから（うん）うんとちゃんと聞けない。隣にいる。B男君が。 |
| T36 | 隣にいるB男君が話しかけてくるから，先生の話はちゃんと聞けない。 |
| C36 | うん，聞けない。 |
| T37 | う～ん。話がちゃんと聞けない。 |
| C37 | それで，大切なところを（うん）聞き逃しちゃう。 |
| T38 | う～ん，大切なところを聞き逃しちゃう。 |
| C38 | 聞き逃しちゃう。 |
| T39 | う～ん，それで， |
| C39 | それで，だから授業中には（うん）話さないで（うん）休み時間になってから（うん）言ってほしい。（あ～ん）ゆうんだったら。 |
| T40 | う～ん。ゆうんだったら授業中じゃなくて休み時間にゆってほしい。 |

〈考　察〉

面接者の「～と思うんだね。」のような応答は，面接者に質問されているのと同じような感じをA男に与えてしまうと考え，できるだけA男が使った言葉で応答することを心掛けた。しかし，T37，T38では言葉をただ繰り返しているだけで，A男の声の調子とは大きなずれがあり，A男の感情に寄り添うことができなかった。A男が話す内容を繰り返すことで，面

接者自身が内容を確認しようとした。その結果，Ａ男と面接者との気持ちの距離は遠くなってしまった。また，Ａ男に話を続けてもらいたいとの思いで発したＴ39の「それで」は，逆にＡ男に話すことを強要してしまったのではないかと考えた。

ウ　表現された感情に寄り添えない面接者

| 第３回面接【家庭での話題を語るＡ男】 | 平成13年６月21日（木） |
|---|---|
| C48 | でもあんまり，（うん）起きてると（うん）睡眠不足になっちゃうから，（うん） |
| T49 | 睡眠不足になっちゃうから， |
| C49 | やっぱり遅くまで起きてるっていっても，（うん）んと～10時くらいまで。 |
| T50 | う～ん，遅くまで起きてても10時くらいまで， |
| C50 | て，お母さんとかが言ってる。 |
| T51 | あ～ん，そういうふうにお母さんたちが言ってる。う～ん。 |
| C51 | 睡眠，んと～もう，もおお，大人に近くなってきてるんだから，（うん）睡眠とらなきゃ（うん）だめだって。 |
| T52 | 大人に近づいてきているから，睡眠とらなくちゃだめだって，家の人は言ってる。（うん）う～ん。 |
| C52 | みんながうらやましいなあ。うふふん。 |
| T53 | みんながうらやましい。（うん） |
| C53 | でも睡眠はちゃんととらなくちゃだめだから。 |
| T54 | う～ん。でも睡眠はちゃんととらなくちゃだめだから。 |

〈考　察〉

第２回の面接の反省から，面接者は，ただ単に言葉を繰り返すのではなく，Ａ男の声の調子や強さに合わせて感情を正確に反射することを試みた。

Ｃ48からＣ53でＡ男は，親の意見を聞かなければいけない自分と友達をうらやましいと思う自分とで葛藤をしている。しかし面接者が，Ａ男の言葉を繰り返すだけの応答に終始してしまったために，Ａ男は自分の感情を深く考えることができなかったのではないかと考えられる。

Ｃ52の「みんながうらやましいなあ。うふふん。」に，面接者はＴ53で，機械的に「みんながうらやましい」と感情に対して応答はできているが，それは，極めて機械的であり，Ａ男の「うらやましいなあ」という感情に寄り添うことができていないと考えられる。

エ　自分の内部的照合枠で理解し応答している面接者

| 第４回面接【好きなゲームのことを語るＡ男】 | 平成13年６月29日（金） |
|---|---|
| C60 | トイザラス。のほうが売ってるかな，売ってるな。トイザラス。 |
| T61 | トイザラス。 |
| C61 | トイ，誕生日はトイザラスで買うから，そのついでにベイブレイドを買ったら，（うん）買う。買いたい。（買いたい）なかったらしょうがないけど，（うん）もしあったら，（うん）買いたい。（買いたい）買いたい。 |
| T62 | それだけ欲しいってゆうこと。 |
| C62 | 欲しい。 |
| T63 | そんなに，おもしろいんだ。うん，何かこう， |

〈考　察〉

今回の面接では，感情に正確に応答することを心掛けた。つまり，単に機械的に言葉を繰り返すだけではなく，Ａ男の感情に寄り添った応答を心掛けた。そうすることによって，Ａ男の感情を理解しようとしたが，Ｔ63で「そんなにおもしろいんだ」と応答しているが「おもしろい」から買いたいのか「みんなが持っている」から買いたいのかは分からない。面接者の内部的照合枠で理解した応答だった。そのために，Ｔ63で「何か，こう」という曖昧な表現になってまったと考えられる。

オ　A男の感情を正確に理解しようとしている面接者

| 第5回面接【自分の気持ちと向き合うA男】 | 平成13年7月5日（木） |
|---|---|
| C43 | 両方の気持ちがある　かな。（うん）あるか～ |
| T43 | 今どれくらい貯まっているのかなあってゆうふうに思って，開けてみたいってゆう気持ちと，それから一杯になるまで開けないで（うん）一杯になるまで開けないでそのままにしておこうってゆうそうゆう気持ちと両方あるのかなあ。 |
| C44 | ある。開けたいけど（うん）んとまんばんになるまで（うん）辛抱しよう（う～ん）でも開けたいなあ。（ううん） |
| T44 | 開けたいけど，最後まで満杯になるまで辛抱しようってゆう気持ちもあるし，それから開けたい，開けたいなあってゆう気持ちもあるし，両方の気持ちがあるんだ。 |

〈考　察〉

今回の面接では，感情が表出された時に特に丁寧に応答することを心掛けた。T43，T44のように「貯金箱を開けたい」という感情と「開けないで辛抱しよう」という二律背反的な感情を丁寧に聴くことによって，A男の感情を正確に理解しようとした。しかし，面接者自身が言葉を多く使ってしまい，長い応答になってしまった。そのことによって，A男は感情がぼやけてしまい，自分の感情と向き合うようになっても，深まりがなかったのではないかと考えられる。もっと，A男の感情の核心をとらえた応答をする必要を感じた。

カ　A男の考えを深めるような応答ができない面接者

| 第6回面接【自分のこととして語らないA男】 | 平成13年7月14日（土） |
|---|---|
| C16 | それで，何であんなに（うん）と前やって怒られたのにまた，（うん）同じことをするのかなあって思った。みんなそう思った。 |
| T18 | また同じことするのかなあって思った。みんなもそう思った。<br>（沈黙7秒） |
| C17 | それで何か男の子たちが集まって，何であんなことすんだよなあって，（う～ん）ひとのもんなのに（うん）何で盗むんだろう。 |
| T19 | ひとのもんなのに何で盗むんだろうってゆうふうに，男の子たちが話したんだ。（B男が咳をする） |

〈考　察〉

前回の面接の反省から面接者は，A男が表出する感情に正確に応答することを心掛けた。

今回の面接では，A男は水泳学習の後ということもあり，体調が悪そうだった。また，A男の表現にある特徴が見られた。それは，話の中にいる自分を第三者に置き換えて言っていることである。C16の「みんなそう思った」やC17の「男の子たちが集まって」というような表現がそれである。

C16の「同じことをするのかなあって思った。みんなそう思った。」に対してのT18や，C17の「男の子たちが集まって，・・・何で盗むんだろう。」に対しての応答T19は，A男の考え方を繰り返す応答にとどまってしまったと考える。面接者が，「A男はどう考えるの」というようなA男の考えを深める応答をすれば，A男は自分と向き合うことができたのではないかと考えられる。

キ　非言語的な表現から感情を感じつつある面接者

| 第７回面接【父親についての思いを語るＡ男】 | 平成13年７月18日（水） |
|---|---|
| T38 | たぶん，大丈夫だと思う。（うなずく）うん。でも今，あ～てゆったときの顔，お母さんにゆったけどお父さにまだゆってないって言った時の顔，（ふふ～ん）なんかすごい顔だったよ。（ん，ん，）本当にあっ～てゆう顔だったよ。 |
| C38 | そうだったかな～。（う～ん）（沈黙72秒）本当にあ～てゆう顔だったかなあ。（小声で）（沈黙51秒）う～ん，その時は，（うん）と～父さんが遊びに行く時とかに，（うん）行っちゃだめってゆったことないの忘れてて，（うん）と～お父さんがあそ　僕が遊びに行く時に，と～行っちゃだめって言ったことないの忘れてて，（うん）それで， |
| T39 | あ～，今まで行っちゃだめってゆうふうにゆったことはないのを忘れてたんだ。う～ん。 |
| C39 | だから，あ～だめか，だめだ～。（うん） |
| T40 | あ～だめか，だめだ～ってゆうふうに思ったんだ。う～ん。 |

〈考　察〉

今回の面接では，Ａ男が表出する感情を意識して聴くことを心掛けた。面接者は，表出された言葉の内容のやりとりに終始することなく，相手の感情がどこにあるのかを敏感に聴くことを心掛けた。

言葉だけではなく，Ａ男の態度や表情などの非言語的な表現をも敏感に感じようとしていた面接者は，映画に行くことを父親に言ってなかったことに気が付いた時のＡ男は，顔の表情や声の調子の強さがそれまでとは明らかに違うことを感じた。面接者は，その時のＡ男の表情や声の調子から，父親への不満や父親に話し忘れていたことに戸惑う感情を感じた。

ク　Ａ男の心理的防衛に戸惑いながら応答している面接者

| 第８回面接【私の応答に修正を繰り返すＡ男】 | 平成13年７月23日（月） |
|---|---|
| C13 | （略）時間がきちゃったから，（うん）時間が時間じゃないや，時間がきたんじゃないや，（うん）それで，んとね　急いで帰ったら，（うん）なんかお父さんに（うん）怒られて（うん）　頭たたかれた。頭たたかれちゃった。 |
| T14 | お父さんに怒られて頭たたかれちゃった。 |
| C14 | う～ん，いったんは（うん）んと～Ｉ君とＲ君とぼくで行って，（うん）それで　なんか帰りで，と～人数数えててそれで，人数数えててそれで，と～ぼくたちが帰ってたら（うん）なんか，人数数えてるんだからうろちょろするなって，怒られて（うん）たたかれた。 |
| T15 | 人数確認してるんだから，うろちょろするなって言われて，それで怒られてたたかれたの。 |
| C15 | こうやって，ぽん～って。 |
| T16 | こうやって，ぽん～って。 |
| C16 | そんなに強くじゃないけど，（うん，うん）こうやって，こうやって。（う～ん）（沈黙13秒） |
| T17 | そん時どんな気持ちだった。 |
| C17 | ん～，どんな気持ちだったろう。う～ん。（沈黙15秒）う～ん，どんな気持ちだったろう。（沈黙21秒）うろちょろしなければ良かった。 |
| T18 | うろちょろしなければ良かった。う～ん。 |

〈考　察〉

今回が最後の面接ということもあり，Ａ男の言語及び非言語に表現される感情を敏感に感じながら応答することを心掛けた。Ａ男が手振りや身振りを交えて話をすることを，感じたままに理解し，正確に応答しようと試みた。しかし，面接者はＴ15でまず内容の確認をしてしまった。Ａ男は，面接者のＴ16の応答に，Ｃ16で「そんなに強くじゃないけど」と心理的防衛を働かせて訂正をしたり，その後沈黙がちになったりしたと考えられる。そして，面接者は，Ａ男の心理的防衛にとまどいながら，Ｔ17で直接的にその時の気持ちを質問してしまったために，Ａ男の感情に寄り添うことができなかったと考える。また，面接の中で面接者の

応答がA男の感情とずれてしまい，A男に訂正をさせてしまったことも反省点であると考えられる。

(3) A男との8回の面接を通しての考察

A男との8回の面接を通して，スケール評定平均値は，上昇傾向にある。しかし，スケール評定平均値の8回目のグラフが下降している。それは，面接者の応答が，A男の話の内容を確認したり，直接的にその時の気持ちを質問したりしたものであったためである。また，A男の心理的防衛の出現率は，減少傾向にある。しかし，6回目の出現率がかなり高くなっている。それは，面接者が，自分を第三者に置き換えて話すA男の感情に寄り添えず，A男の考えを深めるような応答ができなかったために，A男にあくびをしたりため息をついたりするなどの身体反応が現れたことが原因であると考えられる。

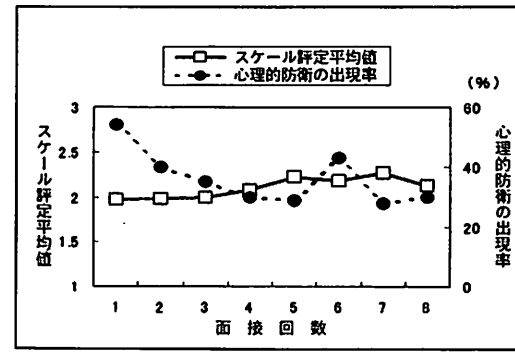


**図3 スケールの評定平均値と心理的防衛の出現率の変化**

## 総合考察

本研究は，ロージァズの来談者中心療法の理論と方法の中でも，特に共感的理解に視点を当て，粗野な言動をとるA男との面接を通して進めてきた。そしてA男との逐語記録を，カウンセラーである面接者については「正確な共感を評定するスケール」，クライエントであるA男については変容過程，面接と学校生活での様子を手掛かりにして検討し，心理的防衛の減少を援助する共感的理解の在り方について究明しようとした。

その中で，次のようなことを体験的に理解することができた。

(1) カウンセラーの共感的理解が深まると，クライエントの心理的防衛が減少すること。

(2) クライエントの心理的防衛が減少すると，感情の表出が促進されること。

(3) クライエントの感情に焦点を当てた正確なカウンセラーの応答が，心理的防衛の減少を援助する方法として有効であること。

(4) 共感的理解を深めるためには，言語的及び非言語的な表現からの理解を包括した，総合的・多面的な理解が有効であること。

(5) 共感的理解を深めるためには，クライエントの諸感情への敏感さと，理解した感情を伝達する言語的な熟練が大切であること。

本研究では，心理的防衛の減少を援助する共感的理解[注12]の在り方に焦点を当てて，粗野な言動をとるA男の面接を行ってきた。その中で，面接者がA男の立場に立って，言い換えれば，A男の内部的照合枠でA男を共感的に理解していこうと努力することによって，少しずつではあるがA男の粗野な言動が減ったり，学習への取り組みが積極的になったりした。そして，面接者は，A男が変容していくことを体験的に理解することができた。また，8回の面接を通してA男は，父親への不満を表したり，思いを語ったりして，家族のことを自分から話し始めた。そして，A男は，自分と家族について今までとは違った視点で見ることができるようになってきた。

最後に，以下の課題を挙げ，これからの研究の指針としたい。

(1) 共感的理解とともに，自己一致，受容的態度についても研究を深める。

(2) 共感的理解を学校生活の様々な場面で，どのように具現化していくか研究を深める。

〈注〉

注１　C.R.ロージャズ『人間論』P.95～96　1967　岩崎学術出版社
注２　C.R.ロージャズ『カウンセリング』P.34～36　1966　岩崎学術出版社
注３　C.R.ロージャズ『サイコセラピィーの過程』P.117～139　1966　岩崎学術出版社
注４　C.R.ロージャズ『サイコセラピィーの過程』P.127～128　1966　岩崎学術出版社
注５　C.R.ロージャズ『サイコセラピィーの過程』P.128　1966　岩崎学術出版社
注６　C.R.ロージャズ『サイコセラピィーの研究』P.248　1966　岩崎学術出版社
注７　飯塚銀次『カウンセリング』　P.68　1976　芸林書房
注８　C.R.ロージャズ『サイコセラピィーの研究』P.247～248　1966　岩崎学術出版社
注９　小林利宣『教育相談の心理学』P.57～66　1984　東信堂
注10　國分康孝『カウンセリングの技法』P.102～105　1979　誠信書房
注11　C.R.ロージャズ『人間関係論』P.52　1967　岩崎学術出版社
注12　駒米勝利『子どもの心がわかる養護教諭に』P.105 出井美智子・鳴澤実編著　1991　学事出版